

令和元年度日韓友好中学生派遣事業

【事業計画】

派遣先：大韓民国江原道平昌郡「大関嶺中学校」

派遣日数：令和元年12月25日～28日の4日間

派遣目的：大関嶺中学との交流を通して、友好親善と相互の文化の向上を図る
国際感覚を豊かにし、互いに尊重し合う態度を身に着け実践できるようにする

派遣人数：市内在住の中学3年生8名

個人負担：20,000円

引率者：教育委員会職員2名

【選考・研修・報告など】

研修等	内容	備考
募集	市報7月1日号に募集記事掲載	7月12日締切り
派遣選考	7月27日作文、日本語面接（応募20名）	派遣8名を決定
第1回	顔合わせ、旅行準備等	11月11日
第2回	語学・マナー研修①	11月30日
臨時	在新潟韓国総領事との懇談	12月4日
第3回	語学・マナー研修②	12月7日
第4回	語学・マナー研修③	12月14日
報告会	各中学校での報告会	1月～2月
報告会	市民を対象とした全体報告会	3月

【日程案】

月日（曜）	日程	備考
12月25日（水）	7：48 越後湯沢発、羽田経由金浦空港 15：00 着、汝矣島（漢江遊覧船）ソウル市内泊	
12月26日（木）	ミュージカル観覧、仁寺洞、景福宮観覧、平昌で歓迎晩餐会、ホームステイ	
12月27日（金）	大関嶺中学訪問、鉢王山展望台、キムチづくり体験、学園祭観覧、月精寺でテンプルステイ	
12月28日（土）	9：00 月精寺発、移動、買物、16：20 金浦空港発羽田空港経由 23：08 越後湯沢着（解散）	

平成元年度カナダ・ビクトリア語学研修派遣

【事業計画】

派遣先：カナダ国ブリティッシュコロンビア州ビクトリア市

派遣日数：令和2年3月25日～4月3日の10日間

派遣目的：㈱ヴィエック・インターナショナルより、自社が実施する語学研修
 に対して南魚沼市から3名を招待いただくこととなり、これに参加
 する中学生に補助を行う

派遣人数：市内在住の中学3年生3名

個人負担：100,000円

【選考・研修・報告など】

研修等	内容	備考
募集	市報11月1日号に募集記事掲載	11月15日締切り
派遣選考	11月30日作文、日本語面接、英語面接（応募9名）	派遣3名を決定
第1回	顔合わせ、旅行準備等	11月11日
第2回	語学・マナー研修①	11月30日
報告会	各自高校へ進学するため、次年度の募集案内に感想文を掲載することで報告に替える	11月1日号原稿

【日程案】

月日（曜）	日程	備考
3月25日（水）	成田発、バンクーバー経由でビクトリアへ移動、ホームステイ（以後毎日）	移動日
3月26日（木）	英語レッスン①、市街地徒歩ツアー	
3月27日（金）	英会話レッスン②、スカベンジャーハント	
3月28日（土）	ホストファミリーと終日行動	
3月29日（日）	ホストファミリーと終日行動	
3月30日（月）	英会話レッスン③、州議事堂等見学	
3月31日（火）	英会話レッスン④、高校訪問、州立大キャンパスツアー	
4月1日（水）	英会話レッスン⑤、買物体験	
4月2日（木）	ビクトリア出発、バンクーバー経由で成田へ	移動日
4月3日（金）	成田空港着	移動日

令和2年度中学生海外派遣事業の派遣先について

令和2年度の中学生海外派遣事業について、派遣先をアメリカ合衆国東海岸とする。

【事業計画案】

派遣先：アメリカ合衆国ワシントンDC、ニューヨーク

派遣日数：8日間

派遣目的：本事業は、次代の南魚沼市を担う若者に、地域の自然・文化・伝統を大切にしながら明るく住みよいまちづくりを進めようという心、広い世界観や人間尊重の精神、日本や故郷への愛着心を醸成するとともに、幅広い知識と高い識見を身に付けさせようと、寄付をいただいた方の意思により始められた事業です。

市内在住の中学生が海外において多様な文化に触れ、人権や平和について学び考えると同時に、南魚沼市の魅力等について情報を発信し、国際的な視野を持った次世代の人材として成長するための経験を培うことを目的としています。

- * 世界の政治・経済に大きな影響力のあるアメリカ合衆国を訪問し、多様な人種で構成される国家の成り立ちや文化、人権や平和問題などを学ぶには、ワシントンDCやニューヨークはうってつけの場所と思われます。あわせて、生活習慣や文化の違いを肌で感じ、現地での交流や会話を通じて英語学習の成果を試すことも重要です。

派遣人数：市内在住の中学3年生12名（前年比△8名）

個人負担：150,000円（前年比+50,000円）減免規程あり

引率者：教育委員会職員2名

日程案：別紙の通り

【選考・研修・報告など】

研修等	内容	備考
募集	市報2月1日号に募集記事掲載	2月17日締切り
派遣選考	作文、日本語面接、英語面接	3月上～中旬
第1回	顔合わせ、旅行準備等、米国史（独立まで）	宗教、先住民族
第2回	英会話練習、米国史（建国～南北戦争）	奴隷制
第3回	英会話練習、米国史（～第2次世界大戦）	世界恐慌、戦争
第4回	英会話練習、米国史（冷戦、公民権運動）	国連、人権
第5回	結団式、米国史（冷戦後～現在）	移民、テロ
報告会	各中学校での報告会	帰国～10月下旬
報告会	市民を対象とした全体報告会	12月上～中旬

- ※ 旅行会社やALTを講師としたこれまでの研修に加え、社会科教師などを招いて全4～5回の事前研修や結団式を実施する。

【日程案】

月日（曜）	日程	備考
9月15日（火）	越後湯沢発、成田経由ワシントンDC着 ワシントン市内泊	移動日
9月16日（水）	ワシントン市内研修（ホワイトハウス、 リンカーン記念堂、アーリントン墓地、 留学生との交流夕食会） ワシントン市内泊	
9月17日（木）	ワシントン市内研修（博物館等） 鉄道にてニューヨークへ移動 ニューヨーク市内泊	
9月18日（金）	ニューヨーク市内研修（9.11 ミュージ アム、国連本部、市内学校交流会）	
9月19日（土）	ニューヨーク県人会員宅訪問 ニューヨーク市内泊	
9月20日（日）	ニューヨーク市内研修（自由の女神、旧 移民局博物館、市内大学キャンパスツア ー、留学生との交流夕食会） ニューヨーク市内泊	
9月21日（祝）	ニューヨーク発、成田経由南魚沼市着	移動日
9月22日（祝）		

※ 成田空港→ワシントン・ダレスの搭乗時間は、約12時間30分。ニューアーク（NY）→成田空港の搭乗時間は、約14時間。

※ 4中学校の校長を集め、本事業に参加した生徒を出席扱いとすることを決定した。市外の中学校へは、市教委から出席の取扱いについて要請文書を送付することとする。

【参考事例】

長岡市：テキサス州フォートワース（中学2年30名、8泊10日、13万円）

ハワイ州ホノルル（中学1年30名、6泊8日、16万円）

燕市：ミシガン州ダンディ（中学生4名、9泊11日、15万円）

湯沢町：ユタ州マグナ（中学生8名、12泊14日、20万円未満）

見附市：ベトナム国ダナン（中学生8名、7泊9日、10万円）

長野新聞販売共済会：ワシントンDC・NY（中校生20名、6泊8日、無料）

宮城県岩沼市：デラウェア州ドーバー・ワシントンDC・NY

（中学生10名、10泊12日、20万円）

岩手県久慈市：インディアナ州フランクリン・NY

（中校生10名、8泊10日、平成27年度実施）

岐阜県関市：ワシントンDC・NY（中学生8名、8泊10日、平成25年度実施）

令和2年度中学生海外派遣事業訪問先選考の経緯

平成20年度から始まった米国オレゴン州への中学生海外派遣事業については、受け入れ先であったエルマイラ高校のブラッド・ベリングラム氏の退職に伴い、令和元年度を以てプログラムを終了することとなっていた。

教育委員会事務局では、令和2年度からの訪問先として、以下の条件の中から選考を進めていた。

- ① 中学生が学習している英語を、母国語、第一言語とした国・地域であること
- ② 姉妹都市など、南魚沼市とゆかりがある国・地域であること
- ③ 治安の良さや医療体制などが整っており、紛争や疫病の危険性が少ないこと
- ④ 現地で、中学生が学ぶべきテーマが確立していること
- ⑤ 現地において、トラブルが発生したときに協力が得られる体制が整っていること

これらの条件のうち、①、②、③を満たしているニュージーランドのアシュバートン郡が、事務局内では候補地として浮上していた。一方で、南魚沼市出身でニューヨークの新潟県人会長を務める大坪賢治氏（別紙の新聞記事を参照）からは、林市長に対して米国東海岸への派遣を促す誘いが来ていた。

平成31年3月28日に、帰省していた大坪会長が林市長と面会する機会があったため、教育長、学校教育課長、派遣事業担当の渡辺が同席し、大坪会長からの提案を伺い、事務局から幾つかの質問を行った。「政治・経済分野での世界の中心であるワシントン・ニューヨーク、世界最高峰の大学ハーバードを擁するボストンを巡り、市内の中学生に大きな刺激を与えたい」との提案は魅力的であり、ニューヨーク新潟県人会がサポートするとの発言は心強いものであった。また、大坪会長からは「林市長から現地を視察してほしい」との依頼があった。

その後、事務局として前述の選考条件に適合するかを検討した結果、①、②、④、⑤を満たしていることがわかった。林市長に報告し、市長と教育委員会部局で米国東海岸を視察し、訪問先として相応しいかを見分することが決定した。（予算は6月補正で対応し、市長の視察に教育委員会が随行）

令和元年10月2日～6日に、林市長、南雲秘書広報課長、山崎学校教育課長、担当渡辺の4名で米国東海岸（ワシントン・ニューヨーク・ボストン）を訪問した。ニューヨーク新潟県人会は、170名以上の会員を有する米国屈指の日本人団体であることがわかり、滞在中にお話しできた会員16名からは、快く協力するとの約束を取り付けることができた。事務局からは⑤のトラブル対応についてお願いをした。他の友好都市でも一定のサポートを得ることは可能と思うが、日本語で会話できるサポートスタッフが多数いることは望めないであろう。その意味では、ニューヨークにおけるサポートは万全と判断できた。更に、滞在中に林市長と山野井駐ニューヨーク総領事が会談し、総領事からも協力の申し出があったことは、大きな安心材料となった。

④については、ワシントンにあるリンカーン記念堂（奴隷廃止のリンカーン像

があり、キング牧師が「I have a dream」の演説を行った場所）やニューヨークの自由の女神・旧移民局博物館などで「自由と平等」をテーマとした学習が、ホワイトハウスやアーリントン墓地、グラウンドゼロ、国連本部を巡って「戦争と平和の歴史」を考えるなど、大きなテーマが設定できると判断された。

懸案だった③については、捉え方により判断が分かれる。9.11 テロが発生し、その後も欧州では大都市部を中心に自爆テロや大型車による無差別殺人が発生していることを思えば、大都市の危険性は衰えていないと判断される。一方で、航空機の搭乗や入国審査（ワシントン・ダレス空港では、90 分以上も手続きで待たされた）の厳しさは、今回の視察で実際に体験できた。一定以上の対策がされていることを考え合わせ、紛争等による危険は少ないと判断した。

また、大都市については一部に治安の悪い地域（スラム等）があることも事実である。特にニューヨークでは、夜間にセントラルパークを歩かないように警告されていた。ほかにもそうした地域があることは否定できないが、マンハッタンの複数の街路を 23 時以降に歩いてみた結果、特段の危険は感じなかった。女性を含めた多数の市民が歩行しており、ホームレスも見かけなかった。（オレゴン州のポートランドの方が、圧倒的にホームレスを見かける機会が多い）中学生の派遣に際しても、特定地域を避けて行動すれば危険性は低いものと推察される。

医療体制については、大都市であり整備されているものと考えられる。旅行保険が適用できる病院とそうでない病院があるようだが、事前に対策が可能と思われる。派遣中に生徒が受診する場合も、引率者が付きっきりになるのではなく、日本語ができる県人会員（またはその家族）がサポートしてくれることで、全体の旅程に与える影響を最小限に抑えられるだろう。

以上が、現地視察を終了しての事務局見解であり、林市長には「次年度の派遣先として、米国東海岸が最適」との復命を行った。

ただし、これまでよりも航空機の搭乗時間が長くなって生徒への負荷が増加すること、渡航費用や滞在費用がこれまでよりも嵩むこと、基金残高が減少してきており、継続的な実施が危ぶまれることなどの懸念材料はある。さらに、令和 2 年度は東京五輪・パラリンピックの開催があり、夏季休暇中の渡航費用は一層の高騰が予見される。

これらに配慮し、次年度の予算要求資料として別紙のおおまかな計画を策定した。今後は、これを基にして計画を練り上げていく予定となっている。